

野生鳥獣（シカ、イノシシ、カラス、クロウサギ）による農作物被害を防ぐ



環境共生科学プログラム
動物行動学分野 高山 耕二

<https://www.agri.kagoshima-u.ac.jp/agri/agri0017/>



研究の背景および目的

- シカ、イノシシ、カラスなど野生鳥獣による農作物被害は深刻な問題となっています。鹿児島県の島嶼地域では、アマミノクロウサギやノヤギによる農作物や希少植物の食害も問題になっています。
- 野生動物の行動特性を明らかにし、効果的かつ持続的な被害防止技術の開発に取り組んでいます。



左:イノシシによる被害(地面の掘り起こし)
右:アマミノクロウサギによるタンカン食害

おもな研究内容

- 野生動物の行動特性(感覚や運動能力)などを解明する



これまでシカ、アマミノクロウサギ、イノシシ、カラスなどを対象として、柵や忌避剤、音声などに対する行動反応を調べ、効果的な被害対策法を研究してきました。

- 被害防止効果を検証する



電気柵の設置効果の検証
左からシカ、イノシシ、ウサギ

アマミノクロウサギによる農作物被害をどう防ぐ？

～アマミノクロウサギ 農作物被害対策マニュアル(抜粋版)～



2025年3月
アマミノクロウサギ対策委員会



被害現場で対策を施し、その効果を検証して、さらに改良を図ります。得られた成果はマニュアルなどを通じて社会に還元してきました。

期待される効果・応用分野

- 野生動物の行動や感覚特性を明らかにすることで…効果的な対策技術の開発や普及に繋がります。
- 動物種毎に適切な対策を実施することで…農作物が守られ、生産者の暮らしが安定します。人と野生動物の生活圏の“棲み分け”が可能になります。



その他の研究

- 野生動物だけでなく、農用家畜(ヤギ、ガチョウ、ニワトリ、アイガモ、コールダック)の研究も行っています。
- 農的暮らしにピッタリの動物たちです。
- 彼らの行動特性と食性にマッチした飼い方、農業での活用法(アイガモ農法、ヤギ・ガチョウの除草利用など)について提案可能です。

